



学校だより

令和5年4月7日

No.1 4月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>



楽しさや喜びを感じる学校生活を

校長 金子 博美

早咲きの桜も何とか散りきることなく子どもたちを祝おうと待っていてくれたようです。新年度がスタートしました。保護者の皆様には、感染症対応など様々な面からご協力をいただいておりますこと、心より感謝申しあげます。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

昨年度の卒業式で、卒業生に向けて次のようなことを伝えました。

これからの生活には、このコロナ禍と同様な、いえ、もっと困難なことが起こるかもしれません。しかし、どんなに困難な時代となっても、わたしたちは、人とかかわって生きていきます。どんなときも、そばにいる人とその時できることを楽しんで皆さんの持ち前の明るさと元気、周囲を受け入れるおおらかさをより一層、発揮し、たくさんの人とかかわってください。その姿こそが周りに幸せを与え、自分自身を豊かにするものだ、私は思っています。天気予報などで雨を伝えるとき、かならずしも「あいにくの雨で・・・」とは伝えません。遠足の日の雨は残念ですが、雨を待ち望んでいる人もいるからです。一つの事実が、よかったか、どうだったか、それはその人その人、そのときそのときによって違います。だからこそ、これからの皆さんには、自分が楽しい、幸せだと思うことを選び、豊かな人生を送り、小学校生活の思い出をよりよいものとしてとらえることができるようになってほしいと思っています。

「小学校生活」を「コロナ禍での3年間」と置き換えて、自分自身にも言い聞かせています。「楽しむ」ことは、力です。自分自身の人生を楽しくするのも、つまらないまま日々を過ごすのも、自分次第です。そして、人は一人では生きていけません。身近な人とかかわることも「楽しむ」ためには欠かせません。この3年間、少しでも楽しもう、思い出を残そうと、子どもたちと共に工夫しながら活動に取り組んできました。その中で多くの経験は、これからの子どもたちの人生が豊かであればあるほど、価値あるものになると信じています。世の中では、突然マスクが必需品となったことに困惑し、一時は入手困難だった状況から、今では多種多様なマスクがつくられるようになりました。知恵でピンチを乗り越え、新たな道を進む・・・子どもたちには、そういう知恵や工夫を身に付けてほしい、楽しさをつくり出すことができる子どもに育ててほしいと思っています。それこそが、コロナ禍での経験を乗り越える術だと考えます。

この先、だんだんに学校で「みんなと一緒にできること」も増えていくでしょう。その日々楽しさや喜びを感じるようにすることが、これまでの生活や経験を少しでも前向きにとらえることができることにつながると信じて、子どもたちにとって「幸せな学校」でありたいと考えます。

今年度も、全ての教育活動をとおして、本校の教育目標「健康で かがやく子」を目指して、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。引き続き、日々様々な工夫を考えながら、教育活動のさらなる充実を目指して進んでいきたいと思っております。本校教育活動へのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。